



教職大学院だより

令和7年10月6日 発行 NO.11

編集:教職実践研究科M1高久田

両センター交流会&ラウンドテーブル 2025夏 開催!!

7月22日(火)に福島県教育センターにおいて両センター交流会が実施されました。教育センター・特別支援教育センターの長期研究員と教職大学院の院生が、お互いの研究内容について話し合いました。また、8月8日(金)に福島大学にて、教育実践福島ラウンドテーブルが行われました。教育に関心のある一般の参加者の皆様をはじめ、大学の教員や学生が多数参加しました。午前中は久里浜医療センターの三原 聡子先生によるネット・ゲーム依存に関する基調講演、午後には参加者が少人数のグループに分かれて教育について意見を交わしました。参加した院生の声を紹介します。



ラウンドテーブルでは、現職の教員や教育センターの長期研究員、普段関わっていなかった教授、学部生と多種多様な立場の方々から、自身の研究について意見をいただくことで、今までになかった視点からの考えに気づききっかけや、学校現場の実際と教育理論のギャップについても考えさせられる場となりました。また、大学院では、学校運営・経営ビジョンや世界の教育制度などを扱う授業で新しい知識を得て見聞を広めること、現職の大学院生や教授と意見を交わす中で、授業の見方や学校教育の在り方など教育の本質を問い直すことを学び、自分自身の教育観を少しずつ育てることができました。ストレートマスターとして2年間学ぶことで、多様な視点を持って初任者となれるように、これからも学び続けたいです。

授業デザインコース1年 山田 大悟(学部新卒)

センター交流とラウンドテーブルでの実践報告は、様々な立場の方から私の研究を見ていただくことで自分の研究を見つめ直すとても良い機会となりました。センター交流では、同じ教科を研究されている先生や他校種の先生方から、キャリア教育に関するそれぞれの考えを聞くことができ、改めてキャリア発達に関する切れ目のない支援を行っていくことの重要性を再確認することができました。

ラウンドテーブルにおいては、一般の方や学校事務の方にも私の研究への理解を得られるように発表方法を工夫して報告を行いました。自分の実践した授業が子どもたちの学びになるものであったことに自信をもつことができたと同時に、その学びにはどのような手立てが有効であったかを子どもたち一人一人の姿から分析を行う必要性にも気付くことができました。この貴重な機会を生かし、2年間の研究をしっかりとまとめていきたいと感じました。

授業デザインコース2年 吉田 亘(現職派遣)

教職カフェ「めばえ」について

教職大学院では、月に1回、大学生との談話会を開催しています。これは、大学生に「教職大学院や教員の仕事についてもっと知ってもらおう！」という取り組みです。教職大学院に所属する先生方も多数いらっしゃるの、先生方から普段の授業では聞けないようなお話を伺ったり、自分の研究について御助言をいただくこともできます。また、大学生にとっては、教員採用試験を経験した院生や現職教員の院生から、受験や仕事についての情報とアドバイスをもらうことができる、貴重な場になっています。

【「めばえ」今後の予定】

- 10月29日(水)
- 11月26日(水)
- 12月17日(水)
- 1月28日(水)



教職大学院って、どんなところ？

福島大学大学院教職実践研究科(教職大学院)では、院生が自らの教員としての専門性をさらに高めるため、大学の講義や実習などを通して学んでいます。教職大学院で学ぶ院生には、大学の学部(学類)を卒業して進学した院生と、学校現場を経験した現職教員である院生がいます。教職大学院は、立場、年齢、学校種や専門教科が異なる院生がともに学ぶことで新たな気づきを得ることができる、恵まれた環境です。

教職大学院で同じ志をもつ仲間とともに、これまでに生じた疑問や課題を一つ一つ追究していく時間は、院生にとってとても有意義なものとなっています。

皆さんもぜひ、教職大学院で学んでみませんか。

教職大学院について知りたいときは ...

教職大学院の情報は
こちら↓



入試情報は
こちら↓



<お問い合わせ先>

福島大学 人間発達文化学類 支援室

Mail: ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

Tel: 024-548-8103

